

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		多和田 真吉		所 属		農学部 亜熱帯生物資源科学科		職 名		教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.20	学部担当科目(生理活性物質学、薬理学)、大学院担当科目(生理活性物質学特論、生物機能開発学特別演習)及び共通教育科目(運動・スポーツ科学演習)を担当する。いずれもシラバスに沿った展開を心がける。また、大学院博士課程、修士課程の教育にも力点を置く。				0.20	学部担当科目(生理活性物質学、薬理学)、大学院担当科目(生理活性物質学特論、生物機能開発学特別演習)及び共通教育科目(運動・スポーツ科学演習)を担当した。いずれもシラバスに沿った授業展開を心がけた。				
研究	0.20	大学院博士3名及び修士課程3名の学生とともに、国内企業との共同研究に従事し、国内外の学会発表や研究論文の採択を目指す。また、研究成果を特許出願できるよう努力する。外部資金を獲得し、社会で実用できる研究開発に努める。				0.20	大学院博士課程3名及び修士課程3名の学生とともに、国内企業4社との共同研究に従事した。また、研究成果として4件の特許を出願した。外部資金を獲得し、社会で実用できるように努めた。				
社会貢献	0.20	日本農薬学会評議員、日本農芸化学会西日本支部参与、学生空手道連盟理事、麻氏門中会会長などとして学外の活動にも積極的に参加し社会貢献に努める。民間企業、国、県の研究組織とも積極的に交流する。				0.20	日本農薬学会評議員、日本農芸化学会西日本支部参与、学生空手道連盟理事、麻氏門中会会長などとして学外の活動にも積極的に参加し社会貢献に努めた。民間企業、国、県の研究組織とも積極的に交流した。				
管理運営	0.20	琉球大学産学官連携推進副機構長として産学連携を推進し、学内研究シーズを広く公報して民間企業との共同研究を支援する。学部、学科及び生物機能開発学講座の発展のために努力する。				0.20	琉球大学産学官連携推進副機構長として産学連携を推進し、学内研究シーズを広く公報するためにバイジャパンやアグリビジネスに参加した。学部、学科及び生物機能開発学講座の発展のために努力した。				
進路指導	0.20	大学院博士課程及び修士課程、また、研究員及び学部卒業生が確実				0.20	大学院博士課程3名の研究指導を行った。また、修士課程2名および学部卒業生3名の学生が確実に就職・進路決定できるよう指導した。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		和田 浩二	所 属	農学部・亜熱帯生物資源科学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	学部担当科目(食品分析学、食品科学、食品機能科学実験Ⅰ・Ⅱ、セミナーⅠ・Ⅱ等)では、これまでの研究成果も紹介する実践的な授業を行う。大学院担当科目(食品分析学特論等)では、プレゼンテーション技術の指導も取り入れる。また大学院生TAの有効活用を図る。		0.30	学部担当科目ではシラバスに沿った授業を行い、その中で食品科学では「沖縄柑橘シークワサーの果皮精油のフレーバー特性」の研究成果を紹介し、実際に標準物質のにおい特性を体験させた。食品機能科学実験Ⅰでも地域特産品である泡盛を実験材料として用いた。大学院の講義では、英語で作成したスライドによるプレゼンテーションを実践した。また大学院生6名を実験、セミナー、卒業論文のTAとして、教育補助に活用した。	
研究	0.40	研究室所属の大学院学生、博士研究員および学外共同研究者と共に研究論文の採択を目指す。国際学会での発表ならびに関連学会の運営に協力する。外部資金を獲得し、関連試験研究機関及び企業との共同研究を行い、実社会にも応用できる技術の開発に努める。		0.40	研究室の学生、研究員および学外の共同研究者との研究成果が国際誌に3報、国内誌に3報掲載された。国際学会で2件、国内学会・研究会で3件の発表を行った。また外部資金等としては民間企業との共同研究1件、沖縄県の試験研究機関との共同研究2件で、食品関連を中心に研究を実施した。	
社会 貢献	0.15	専門分野における学外委員会に参画する。これまでの共同研究の成果を講演会やセミナーなどで公表し、社会貢献を行う。		0.15	学外委員として沖縄県含みつ糖対策協議会、沖縄県6次産業化推進基本戦略検討会、他1つの審議委員会に参画した。産業支援としては、平成25年度西日本食品産業創造展(マリンメッセ福岡)において、沖縄特産柑橘シークワサーのフレーバー特性と機能性についてセミナーを行った。	
管理 運営	0.10	全学的には研究推進戦略委員、学部では担当委員としてそれぞれの組織の管理運営に参加する。		0.10	全学的には研究戦略推進委員として、学内の研究関連事項の管理運営に携わった。学部内においては、将来計画委員と自己評価委員として学部の管理運営にあたった。	
進路 指導	0.05	食品関連の資格(食品衛生監視員及び食品衛生管理者任用資格、健康食品管理士受験資格)の取得や現状について学生に講義やセミナーを通して指導する。また、民間企業等の就職開拓に協力する。		0.05	食品関連の資格(食品衛生監視員および食品衛生管理者任用資格、健康食品管理士受験資格)の取得については、前期の食品分析学の講義の中でプリントを配布して指導を行った。研究室の指導学生については、大学院進学者以外は1名を除き民間企業への就職が決定できた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城一彦	所 属	農学部	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.20	学部の講義、天然物化学、菌類学、セミナー(I, II)食品機能化学実験、卒業論文(I, II)、大学院では林産化学特論、亜熱帯農学特別演習、亜熱帯農学特別研究を担当し、シラバスに沿った理解しやすい工夫した講義を行い、質の確保をする。		0.20	学部の講義、天然物化学、菌類学、セミナー(I, II)食品機能化学実験、卒業論文(I, II)、大学院では林産化学特論、亜熱帯農学特別演習、亜熱帯農学特別研究を担当し、シラバスに沿った理解しやすい工夫した講義を行った。	
研究	0.20	修士課程の学生と国内外の学会の発表や論文の投稿を目指す。受託研究、奨学金等の外部資金の獲得を目指す。日本木材学会評議員、日本木材学会九州支部理事として研究会や運営に関わる。		0.20	日本木材学会、亜熱帯森林・林業研究会で発表した。シロアリ辞典の執筆を行った。日本木材学科監事、日本木材学会九州支部理事として研究会や運営に関わった。受託研究、寄付金を受け、木造住宅の耐久性向上のための研究を行った。	
社会貢献	0.20	一般社団法人沖縄県シロアリ対策協会会長、しろあり対策研究会会長、南方資源利用技術研究会会長、亜熱帯森林・林業研究会会長、沖縄県マングローブ教会理事として研究会や学会に積極的に参加し、意見等を述べる。		0.20	(一社)沖縄県シロアリ対策協会会長、しろあり対策研究会会長、南方資源利用技術研究会会長、亜熱帯森林・林業研究会会長、沖縄県マングローブ教会理事として会議に参加し意見を述べた。(一社)沖縄県シロアリ対策協会会長として、防除士を指導し、重要文化財の宮良家、新盛家の蟻害・腐朽調査を行った。	
管理運営	0.20	就職センター広報部門長として学部と就職センターの連携をはかる。副学部長、進路指導委員長として大学、学部、学科の管理運営に貢献するとともに就職に関する情報を提供する。		0.20	就職センター広報部門長として学部と就職センターの連携をはかる。副学部長、進路指導委員長として大学、学部、学科の管理運営、院生や学生に就職に関する情報を提供した。	
進路指導	0.20	大学院生や学部学生の民間企業(県内、県外)への就職先の紹介、エントリーシートの添削、面接の受け方等を指導する。地方公務員受験への情報の提供を行う		0.20	大学院生や学部学生の民間企業(県内、県外)への就職先の紹介、エントリーシートの添削、面接の受け方等を指導した。院生が沖縄県、学部学生がJAに合格した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		玉城 一	所 属		農学部 亜熱帯生物資源科学	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	学部教育では栄養生理学、栄養化学、亜熱帯生物資源科学実験、食品機能科学実験を、大学院では栄養化学特論を担当する。またセミナーや卒業論文作成に関する教育を行う。			0.40	標記の講義、セミナー、卒論の指導を行った。		
研究	0.25	学生に対して研究指導を行い、学会発表、学術論文の書き方を指導するとともに学術誌への投稿を行う。また企業や地域の市町村との共同研究を行う(豚肉脂肪酸組成改善、新規豚肥料の開発、北中城産アーサの有効利用)。			0.40	学生への研究指導を行うとともに企業、地域との共同研究を行った。		
社会貢献	0.20	地域の企業、団体との共同研究を通し、社会に貢献しうる技術のシーズを見出す。また県内高校生への体験学習等を提供する。			0.10	中城村及び地域の企業と共同研究を行い、地域資源活用のための基礎研究を行った。		
管理運営	0.10	環境、交通、施設等委員会、予算委員会、エコアクション21ユニット実施などの委員会活動に積極的に参加する。			0.05	各種委員の業務を遂行した。		
進路指導	0.20	学生の就職、進学相談に対して積極的に情報提供、アドバイスを行う。			0.05	学生の進路相談、アドバイスを行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		上地 俊徳	所 属		農学部 亜熱帯生物資源科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.55	担当授業(学部:食品衛生学、免疫臨床化学、大学院:生物資源利用科学特論など)をとおして大学生、院生にふさわしい知識、技術を教授し社会に役立つ人材育成の一翼を担うべく努める。なお講義などでは常に最新の情報なども提供できるように配慮する。			0.55	改良すべき点はまだまだありますが、全体として目標はほぼ達成できたと思います		
研究	0.30	卒論研究が活動の中心となるが、その他に沖縄県の平成25年度ライフスタイルイノベーション創出推進事業プロジェクトにメンバーとして参加予定(2件のうち1件はほぼ確定)。			0.30	共同研究にも加わることができて、目標はほぼ達成できたと思う		
社会貢献	0.05	沖縄県食品の安全安心推進計画懇話会の構成員(委員長)として、県民の食生活向上等に貢献する			0.00	理由は定かではないが、今年度は本委員会は開催されませんでした		
管理運営	0.05	学術報告編集委員(H25.4.1~H27.3.31)、図書運営委員(H25.4.1~H26.3.31)、代議員(H25.4.1~H26.3.31)などの委員会メンバーの一員として役割を果たす。			0.05	目標は達成できたように思います		
進路指導	0.05	就職、進学を問わず、研究室所属学生の希望が達成できるように全面的に支援協力する。特に就職活動が忙しい時期はそれに集中できる環境を整えてあげる。			0.10	積極的に支援してきましたが、2月の時点で50%の達成率でした		
	0.00	(空欄)			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高良健作	所 属	農学部 亜熱帯生物資源科学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.35	授業はシラバスに挙げた教育目標の達成はもちろん、他の理系学部 の学生に対しても分かりやすい講義を心がける。一方で食品化学分 野で取り組んでいる研究内容を講義で紹介し、最新の情報を提供す る。また学生実験ではTAを積極的に生かし「学生自らで考える実験」 の場を作る。		0.40	シラバスに挙げた教育目標の授業を概ね行うことができた。授業の一部に 2、3名の小グループによるプレゼンテーション方式を取り入れてみたところ、 好評であったが、一方で授業計画の見直しが必要に感じた。また実験で はTAを活用した自主的な取り組みを行うことができた。	
研究	0.35	国内外の学会発表、また学会誌への投稿を積極的に行う。また食品機能の研究分野 を中心とした産学連携の共同研究等による外部資金の獲得に積極的に取り組む。		0.35	17th EURO Food Chem (トルコ)や13th ASEAN Food Conference 2013(シン ガポール)などの学会へ参加する他、外部資金を利用した研究を進めるこ とができた。	
社会 貢献	0.10	放送大学における面接授業の依頼を受けたことをきっかけに、今年 度は生涯学習への貢献にチャレンジする。		0.10	放送大学の面接授業や日本学校農業クラブ全国大会(平成26年度沖縄大 会)の委員に加わり社会への貢献を行った。	
管理 運営	0.15	全学安全衛生委員、ハラスメント相談室員の他、教育委員等へ積極 的に活動する。		0.10	ハラスメント調査室員を主とする全学・学部の委員会へ積極的に活動した。	
進路 指導	0.05	食品衛生監視員の経歴を生かし、学生へ専門職についての情報提 供を日ごろから行う。		0.05	積極的に就職情報を提供するなど、進路指導を日常的に行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してく ださい。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		外山博英		所 属		農学部 亜熱帯生物資源科学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	前期、学部3年生に「発酵化学」と「発酵・生命科学実験」(分担)を行う。後期、学部1年生に「生物化学」、学部3年生に「泡盛醸造学」、大学院生に「応用生物化学特論」、学部3年生に「泡盛醸造学実験」(分担)を行う。修士論文、卒業論文のための研究指導を行う。1年次と3年次の指導教員を担当する。				0.30	前期、学部3年生に「発酵化学」と「発酵・生命科学実験」(分担)を行った。後期、学部1年生に「生物化学」、学部3年生に「泡盛醸造学」、大学院生に「応用生物化学特論」、学部3年生に「泡盛醸造学実験」(分担)を行なった。修士論文、卒業論文のための研究指導を行なった。1年次と3年次の指導教員を担当した。				
研究	0.30	微生物に関して、会社のコンサルタント業務を行う。酢酸菌研究集会を沖縄で開催し、発表を行う。ビタミンB研究協議会で口頭発表する。日本農芸化学会本大会(東京)において発表する。学術論文を2報以上投稿する。書籍の分担部分を執筆する。チェコのグループとの共同研究を推進する。泡盛に関する共同研究を推進する。				0.30	微生物に関して、会社のコンサルタント業務を行なった。酢酸菌研究集会を沖縄で開催し、発表を行なった。ビタミンB研究協議会で2回口頭発表した。日本農芸化学会本大会(東京)において発表する。学術論文を2報投稿し、採択された。書籍の分担部分を執筆した。チェコのグループとの共同研究を推進した。泡盛に関する共同研究を推進した。				
社会貢献	0.25	沖縄県酒造協同組合や協同組合琉球泡盛古酒の郷の酒質審査委員として未納税酒の品質に関する審査を行う。学術雑誌の論文審査を行う。日本生物工学会と日本農芸化学会西日本支部の評議員を務める。沖縄国税事務所の泡盛品質評価委員を務める。公開講義「発酵学」を開講する。発酵関連のシンポジウムを開催する。				0.30	沖縄県酒造協同組合や協同組合琉球泡盛古酒の郷の酒質審査委員として未納税酒の品質に関する審査を行なった。学術雑誌の論文審査を4件行なった。日本生物工学会と日本農芸化学会西日本支部の評議員を務めた。沖縄国税事務所の泡盛品質評価委員を務めた。農学部主催の地域貢献推進シンポジウムを開催した。				
管理運営	0.10	鹿児島大学大学院連合農学研究科の代議員を務める。農学部教育委員、予算委員会委員として活動する。全学の短期留学プログラム実施委員会に出席する。農学部の地域貢献支援委員会の委員長と全学委員を務める。				0.10	鹿児島大学大学院連合農学研究科の代議員を務めた。農学部教育委員、予算委員会委員として活動した。全学の短期留学プログラム実施委員会に出席した。農学部の地域貢献支援委員会の委員長と全学委員を務めた。				
進路指導	0.05	4年生の就職や進学について、会社や大学院の紹介などを行い、進路についての相談に応じるなど、適切に指導を行う。				0.00	4年生の就職や進学について、会社や大学院の紹介などを行い、進路についての相談に応じるなど、適切に指導を行なった。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平良 東紀	所 属		農学部 亜熱帯生物資源科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	学部科目(講義2科目, 実習3科目, 演習2科目), および大学院科目(講義1科目, 演習2科目)を担当し、各学年のレベルに合う講義および実習を行う。特に、学部2年次導入科目である物理化学および生命科学の講義の予習・復習のために、講義のスライドをe-learningのweb siteで学生が見られるようにする。講義の理解度を上げるために「ワークシート」を持ちいる。また、講義に対する学生からの意見を取り入れるために「チャトル・カード」を用いる。			0.25	生命科学および物理化学では、Web class (e-learningシステム)上に講義のスライドをいつでも学生が見られるようにすると同時に、講義のより効率的な理解を進めるために、ワークシートを用いた。また、講義に対する学生からの意見を取り入れられるよう「チャトル・カード」を用い、授業の改善に努めた。		
研究	0.35	専門分野での学会発表を行うために大学院修士課程の学生と共に研究を行う。大学院修士課程の学生と共に学会発表を積極的に行うとともに、研究論文の採択を目指す。他研究機関との共同研究を行い、高いレベルの研究論文の採択を目指す。泡盛やもろみ酢に関する研究で外部資金の獲得を目指す。			0.30	大学院修士課程の学生および他研究機関との共同研究の成果を学会で4件(国際学会1, k国内3)発表した。これらの成果の一部を国際誌(Acta Crystallogr, IF=0.552; Arch Microbiol, IF=2.125; Biochim Biophys Acta, IF=3.733)に投稿し、3件採択された。泡盛もろみ酢に関する研究で企業と共同で公募研究に応募・採択され外部資金を獲得し、成果を得た。		
社会貢献	0.20	高校生が大学に来て農学に関わる研究を体験できる「体験アグリサイエンス」を開催し、多くの参加者に来てもらい、自然科学(理科)に興味を持ってもらう。また、高等学校向けの出前講座「バイオサイエンスと私達」を開講する。南方資源利用技術研究会の編集幹事として、会誌の編集・発行を行う。			0.20	「体験アグリサイエンス」の実施担当者の1人として、平成25年度ひらめき☆ときめきサイエンスへ応募し、採択された。参加者アンケートによると、本企画は極めて好評で、本企画を通して高校生に科学に対する興味を持ってもらったことが分かった。首里高校にて社会人講話「バイオサイエンスと私達」を行った。南方資源利用技術研究会会誌第29巻第1号の編集を行った。		
管理運営	0.10	広報委員では、広報委員長として農学部概要の編集、オープンキャンパス企画・取りまとめ、高校へ出前学部説明会への参加等、積極的に委員会活動を行う。			0.10	広報委員では、オープンキャンパス企画・取りまとめおよび農学部概要の編集・作成を中心となって行った。広報委員のウェブページ担当者として、ウェブページの更新等を行った。高校での出前学部説明会を分担で行った。		
進路指導	0.10	3年次の指導教員として、キャリア実習の取りまとめを行う。また、年次別懇談会等で進学・就職指導を行う。			0.15	前期では3年次指導教員として、キャリア実習の実習先の希望調査から実習先の確保・各種調整を行い、それを通して進路指導を行った。後期の年次別懇談会で、現在の本学科の就職動向などを説明し、進路希望調査を行った上で、就職センターの利用を促すなど、就職指導を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		渡邊泰祐	所 属		農学部 亜熱帯生物資源科学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	「発酵・生命科学実験」、「食農環境概論」、「泡盛醸造学実験」、「熱帯生物資源科学実験III」等を分担担当する。博士論文、修士論文、卒業論文作成のための研究指導を行う。			0.40	「発酵・生命科学実験」、「食農環境概論」、「泡盛醸造学実験」、「亜熱帯生物資源科学実験III」、「亜熱帯生物資源科学総論」等を分担担当した。博士論文、修士論文、卒業論文作成のための研究指導を適切に行った。		
研究	0.45	日本生物工学会、日本応用糖質科学会、日本農芸化学会等の学会において研究発表を行う予定である。学術論文の投稿準備を行う。			0.45	日本生物工学会、日本応用糖質科学会で講演を行った。日本農芸化学会、日本ゲノム微生物学会で3月に研究発表を行う予定である。学術論文として学術雑誌3誌に、総説として学術雑誌1誌に研究成果を公表した。		
社会貢献	0.05	研究結果の社会還元・普及に関して、積極的に活動を行う。			0.05	日本生物工学会の微生物共生活用発酵工学研究部会の事務局幹事を担当した。日本醸造学会若手の会の運営委員として、大学生を対象とした醸造研究のシンポジウム等の普及活動の運営と世話人を担当した。		
管理運営	0.05	農学部環境・交通・施設等委員会委員、安全衛生委員会委員、エコアクション21ユニット実施責任者(行動計画担当)として活動を行う。			0.05	農学部環境・交通・施設等委員会委員、安全衛生委員会委員、エコアクション21ユニット実施責任者(行動計画担当)として活動を行った。全学の化学物質管理専門部会委員として、琉球大学化学物質管理システム導入に尽力した。		
進路指導	0.05	学部4年生、修士課程2年次、博士課程の学生の就職や進学について、会社や大学院の紹介などを行い、進路についての相談に応じるなど、適切に指導を行う。			0.05	学部4年生、修士課程、博士課程の学生の就職や進学について、一般企業への就職や大学院進学の紹介などを行い、進路についての相談に応じるなど、適切に指導を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			